

## 場所愛，地図愛，そして人間愛 ー佳い地理授業ができる教師とはー

志村 喬（上越教育大学）

### 1. 白野庄衛さんが逝って10年

2008年12月17日，新潟地理談話会そして本誌『新潟地理フォーラム』を力強く応援してくれた白野庄衛さんが亡くなった。その年度の終わり2009年3月に刊行したフォーラム第5号は「白野庄衛さんを偲ぶ」との特集を組み，彼の早すぎる逝去を悼んだ。

今回，期せずして吉田行香さんから白野さんについての寄稿があり，あの訃報から10年となるのを思い起こした。同時に，吉田さんはじめ当時の若手教員であった人たちが今や新潟県の高校地理教育を中心に支えていることから，白野さんの教育力を改めて認識することとなった。ついではこの機に，最近考えた地理と教育について記したい。

### 2. 戦時改描図研究のパイオニアとしての白野さん

吉田行香さんの原稿を読む数日前，歴史地理学会の学会誌『歴史地理学』60巻1号が届いた。同号には，山田誠氏（京都大学名誉教授）の論文「戦時改描図の類型区分ー残存図の観察に基づく一試論ー」が掲載されており，先行研究について述べた論文冒頭に次のような記述があった。

戦時改描図を実例とともに紹介した文献としては，清水靖夫による『日本図史体系』…。清水はその後も戦時改描図に関する論考を数多く著し，この分野の研究をリードしてきた。1990年代になると，両角 節による貴重な資料の紹介を含む包括的な論文<sup>3)</sup>や，白野庄衛による新潟県下の改描図の実例を含む論文<sup>4)</sup>が著されたが，これら論文はともに掲載誌の所蔵機関がごく限られ，そこに記された諸事実が直ちに学界の共有財産になることはなかったように思われる。」（山田，2018，p.38：下線志村挿入）

なお，ここで引用されている白野さんの論文（注番号4）は次である。

白野正衛「地形図の全国整備と軍機の保護」研究紀要（新潟県立新津高等学校）29,1997.22-34頁。

すなわち，新津高校勤務時代に茨城大学の中川浩一先生の下へ内地留学した成果として学校紀要に掲載した論文が，学界共有財産に値する知見であったとの評価である。白野さんを，追悼特集号で「地図教育と戦時改描図研究の第一人者」と私は記したが，10年過ぎた時点の碩学の評価からは，改めて白野さんの研究し続ける教師の姿を思い起こさせる。

### 3. 日本の地理学研究における地理教育の位置づけ

放送大学の地理学講義科目に人文地理学があり，その新版の教材テキストとして『現代人文地理学』（佐藤廉也・宮澤仁編著）が2018年3月刊行された。執筆陣も大きく世代交代し，斬新な構成・内容でまさに「現代」を冠するに相応しいと思いつつ頁をめくり驚

いたのが、口絵に掲載されたカラー図「地理学の学会機関誌に掲載された論文のキーワード」である。本図は、最終第 15 章「人文地理学の研究動向と展望」において研究動向を捉えるために、主要学会誌掲載論文キーワードの出現頻度を可視化したものである。ここからは、2006 年度以降の地理学研究の中央に地理教育が位置するだけでなく、出現頻度も極めて多いことが一目瞭然である。地理教育研究に身を置いている私としては、高校地理カリキュラム改革を基軸に地理学研究界が地理教育へ関心を高めていることは実感してきたが、ここまでとは思っておらず驚きであった。

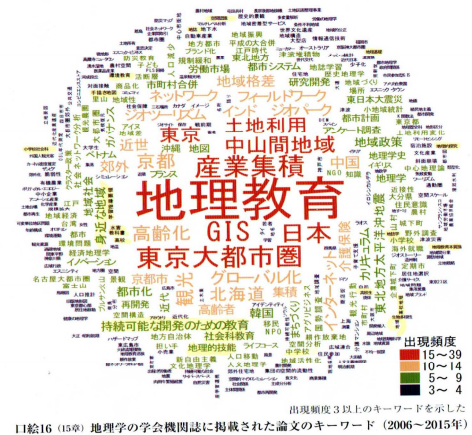


図 1：地理学の学会機関誌に掲載された論文のキーワード

佐藤・宮澤編著(2018)口絵 16 より転載

#### 4. アメリカ地理学会における地理教育研究の位置

アメリカの地理学研究界においても現在、地理教育の存在感はかなり大きい。その象徴はアメリカ合衆国に拠点を置くアメリカ地理学会 (American Association of Geographers: 以下 AAG) の 2015 ~ 2016 年会長にテキサス A&M 大学地理学科のサラ・ベドナルズ (Sarah Bednarz) が選出されたことであろう。アメリカ合衆国における地理教育研究の拠点である同大学地理学科の彼女は、空間認識・空間的思考力をはじめとした地理教育研究において国際的に活躍しており、日本人はじめ世界各地からの留学生も育成してきた。親日派でもあり、国内外の国際会議で私も教示を受けてきた。とりわけ地理教育研究の理論的分析枠組みの国際誌での提起 (2000) と、それをふまえたアメリカ合衆国における動向を検討した AAG の第 2 学会誌 *The Professional Geographers* における地理教育特集の巻頭共著論文 (2004) は大変参考になっている。そして、そこからの情報からは、AAG における地理教育の位置が次のように具体的に想像できる。

まず、*The Professional Geographers* 誌上では 1999 年にも地理教育特集が組まれていた。「地理教育の博士号専門性」と題された同特集は 6 編の論文から構成されているが、その巻頭論文は L.A. ブラウン (L.A. Brown) による「地理教育研究アジェンダに向けて：関係する専門職からの所見」であった。内容は、地理教育研究の社会科学的アプローチ・科学性を一層求めるものであるが、私にとっては L.A. ブラウン (1935-2014) が、地理教育に関わる論文を寄せていること自体が驚きであった。私にとってブラウンは、空間的拡散研究を主導した著名な地理学者であり、修士論文では理論的分析枠組みとして引用していた。その後、地理教育研究に転じたため彼のその後は知らなかったが、この機会にアメリカ地理学会会員動向で調べてみると、オハイオ州立大学地理学教室で活躍し、1996 ~ 1997 年にはアメリカ地理学会会長を務めていた。この 1999 年論文は、1997 年にテキサス大学で開催された地理教育研究大会における発表が元であり、会長として地理教育研究の在り方について関与していたのである。

さらに、ベドナルズの 2004 年論文は、最近のアメリカ地理学会会長である次の 4 人は、地理教育を研究領域の一つにしていると記している (p.24)。

Reginald Golledge (1999-2000: 会長在任年)

Janice J. Monk (2001-02)

Duane Nellis (2002-03) : 1994 年には全米地理教育協会 (NCGE) 会長を経験

Alexander B. Murphy (2003-04)

この情報に驚いてた所, AAG 会長講演から地理教育の位置づけを知るのに好適な論文が, *The Professional Geographers* 最新号 (2018 年 5 月号) に掲載された。「アメリカ地理学会会長講演の引用インパクト」と題された Brunn (2018) である。本論文は, 1944 年のホイットルセーの会長講演から 2011 年のハーデンの会長講演までの引用インパクトを分析したものである。分析過程 (p.214, 図 5) では, インパクトが高い 32 人の講演が, 21 の内容類型のどれを含んでいるか重複カウントして整理しており, 上位から示すと次である。

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 1 : 学問としての地理, 20 人  | 2 : 地理の歴史, 16 人  |
| 3 : 学際性, 17 人       | 4 : 政治・政策, 15 人  |
| 5 : 地域, 14 人        | 6 : 社会的・社会, 13 人 |
| <u>7 : 教育, 12 人</u> | 7 : 地図, 12 人     |
| 9 : 自然・人間, 11 人     | 10 : 伝統, 9 人     |
| 10 : 科学, 9 人        | 10 : 歴史 (的), 9 人 |
| 13 : 方法, 7 人        | 13 : 文化, 7 人     |
| 13 : フィールドの方法, 7 人  | 16 : 経済, 6 人     |
| 16 : 自然地理, 6 人      | 16 : 時間, 6 人     |
| 19 : 人文地理, 5 人      | 19 : 環境, 5 人     |
| 19 : 空間, 5 人        |                  |

「教育」は「地図」とともに, 4 割近くの講演内容に含まれているのである。

そこで, 有名なカール・サウワースの会長講演論文「地理学者の教育」(Sauer, 1956) はじめ, 地理教育に関係するいくつかの講演論文に目を通しはじめた。すると, 1985 年のルイスによる「記述を超えて」(Lewis) に, 興味深い内容・用語があった。文化地理学・景観学を専門としたペンシルベニア州立大学教授ルイス (1927-2018) は, 1983 年から 84 年にアメリカ地理学会会長を務めている。アメリカ合衆国における地理教育復興運動の開始を告げた『地理教育ガイドライン』(アメリカ地理学会等の地理学・地理教育組織による「地理の 5 大テーマ」の提示) は 1984 年であり, 彼の会長時にガイドラインが刊行されていた。そのような文脈, あるいは彼の専攻領域からか, サウワース講演論文を引用しながらも講演内容は, 専門地理学者の教育よりも学校教育や教養教育, さらに社会全体と地理学 (研究者) との関わりに関して論じたものである<sup>1)</sup>。同論文は, ナショナル・ジオグラフィック誌に象徴されるようにアメリカ市民一般が求める地理は「生き生きとした (vivid) 地理的記述」と述べた上で, 地理学者自身も根底にはそのような志向を持っていると主張する。その志向の 1 つは, トゥアンが 1961 年に主張したトポフィリア (topophilia), 即ち大地・地表面に対して人々が本能的に抱く親愛の感情 (愛着) である「場所愛」である。これに加えて氏は, もうひとつの共通志向として地図に対して本能的

1) サウワースの会長講演内容を援用して学校地理教育研究を論じた代表的論文は次であろう。Downs, R.M. (1994) : Being and Becoming a Geographer: an agenda for geography education. *Annals of Association of American Geographers*, 84 (2), pp.175-191.

に抱く愛着を指摘し、これをカルトフィラ(cartophila), 和訳するならば「地図愛」を提起したのである。

「場所愛」と「地図愛」を兼ね備えたのが地理が好きな人々というこの箇所を読んだ時、これまで地理に関わって出会った多くの人々が脳裏に浮かび、極めて自然に納得できた。そしてその中には、もちろん白野さんもいた。ただ、白野さんの場合、もう一つの言葉が直ぐに連想された。それは「人間愛」だった。

## 5. 佳い地理授業ができる教師がもつ共通項

この春、東京都立高校から現職派遣で大学院へ来たゼミ生が定年退職した。とても佳い地理授業をする教師で、話が大変愉しかった。彼は、定年に際して「若き地理教師へのメッセージ～これまで、そして、これから～」なるものを雑誌に寄稿したが、最後は次のように結ばれている。

地理教師 34 年, 49 カ国訪問, 46 都道府県訪問, 新聞の切り抜きファイル 119 冊, 読書記録ファイル 29 冊, 研究会の実施回数 43 回, 教え子は 7000 人以上になる。ここ数年, 1 年間の最後の授業では, 素敵なイラストの絵本『この世界いっぱい』を読んで締めくくる。これからも, 未来の主人公に, 希望をこめて地理の授業をして行きたい。わくわく, どきどき, ひやひやしながら……。 (大久保, 2018)

彼も, 場所愛, 地図愛, 人間愛に満ちている。

## 6. おわりに

白野さんがこれを読んだら, 「志村さん, また『出羽守』になってるよ!」と言うだろう。でも, 私なりの「場所愛・地図愛」から書いてしまったと応えれば, 「しょうがないな」とあの太い声できっと笑うだろう。

(2018.05.25 記)

### 文献

- 大久保正明 (2018): 若き地理教師へのメッセージ～これまで、そして、これから～. 地理月報, 552 号, pp.20-21.
- 山田 誠 (2018): 戦時改描図の類型区分－残存図の観察に基づく一試論－. 歴史地理学, 60(1), pp.38-59.
- 佐藤廉也・宮澤仁編著 (2018): 『現代人文地理学』放送大学教育振興会.
- Bednarz, Sarah (2000): Geography Education Research in the *Journal of Geography* 1988-1997. *International Research in Geographical and Environmental Education*, 9(2), pp.128-140.
- Bednarz, Robert S. and Bednarz, Sarah Witham (2004): Geography Education: the glass is half full and it's getting fuller. *The Professional Geographers*, 56(1), pp.22-27.
- Brown, L.A. (1999): Towards a GeoEd research Agenda: observation of a concerned professionals. *The Professional Geographers*, 51(4), pp.562-571.
- Brunn, Stanley D. (2018): Citation Impacts of AAG Presidential Addresses. *The Professional Geographers*, 70(2), pp.209-218.
- Lewis, P. (1985): Beyond Description. *Annals of Association of American Geographers*, 75(4), pp.465-477.
- Sauer, C.O. (1956): The Education of a Geographers. *Annals of Association of American Geographers*, 46(3), pp.287-299.